

第150回簿記検定試験

1級 出題の意図

[商業簿記]

(出題の意図)

一般商品販売に加えて、海外から仕入れた商品を未着のまま販売する未着品販売を営む会社の決算整理前残高試算表から、決算整理事項等に基づいて決算整理後残高試算表を作成させる総合問題を出題しました。

一般商品販売と未着品販売とでは原価率が異なっているため、まず一般商品販売における原価率を算定して、これに基づいて未着品販売における原価率を推定し、未着品売上から未着品の売上原価を論理的に推定することができるかどうかを焦点のひとつとしました。決算整理前残高試算表と期末整理事項等にもとづいて販売形態ごとの原価率を正確に導き出せるかが鍵となっています。

その他に、今回出題の主要論点としたのは、為替予約の振当処理、貸倒懸念債権に対する引当金の設定、自己株式の一部を対価とする企業結合の処理、積立金方式による圧縮記帳の処理、資産除去債務の処理、および外貨建有価証券の期末評価などで、上級の範囲から幅広く論点を網羅するように取りあげました。

苦手領域を避けるのではなく、満遍なく地道に学習を進めていくことが、結局は簿記を理解する近道になります。

[会計学]

(出題の意図)

問題 1 では、会計学における基本用語について、用語同士の関連性を理解しているかを問う問題を出題しました。それぞれの用語の意義を理解することはもちろん、関連する会計処理や概念についてもあわせて理解することによって、より深く理解することができるようになります。

問題 2 では、それぞれの状況ごとに正しい会計処理とそれに関連する具体的な会計処理を問う問題を出題しました。誤った会計処理が含まれている文章を判別できるかが重要です。また、その内容を具体的に仕訳や財務諸表上の金額でも表現できるかという点も重要です。

問題 3 では、財務報告の目的という、会計学（財務会計論）において最も重要な基礎概念について短い記述を求めました。近年では、論述式の問題があまり出題されていませんでしたが、会計学の考え方について、誰にでもわかるように平易に説明できる能力は、会計に関連する仕事においては常に要求されます。特に、会計が何を目的にして存在しているのかという基本問題については、

十分に理解しておく必要があります。

[工業簿記]

(出題の意図)

材料の取得原価の計算、材料費計算、製造間接費計算、総合原価計算からの出題でした。また、正常仕損費の測定と処理ならびに製造間接費の配賦については活動基準原価計算の計算と理論の理解度を問うています。品質検査を重視しており、抜き取りではなく全数検査を、製造工程の中間点（加工費進捗度 50% の点）と終点にて行っていることが想定されています。したがって、検査個数については加工費進捗度を考慮する必要がありました。

[原価計算]

(出題の意図)

第 1 問では、予算編成の基本的な知識を問う出題をしました。すなわち、問 1 から問 5 までは、販売予算から始まり売上原価予算を計算し、販売費及び一般管理費を計算することにより、全部原価計算にもとづく損益計算書を作成するまでの一連の流れが理解できているかを問う設問です。問 1 は全部原価計算ですから、直接材料費、変動加工費、固定加工費を合計することになります。問 2 では、販売予算、製造予算、直接材料費予算の順に数量を確認したうえで購買予算を計算する点がポイントです。問 3 では、答案用紙に示されたプロセスに従って解答する必要があります。問 4 は高低点法を問うていますが、正常操業圏での原価予測である点に注意を払いましょう。問 6 は、全部原価計算と直接原価計算による営業利益の違いがどこから生まれるのかに気づくことができれば容易な問題です。

第 2 問は新規の顧客からの特別注文可否の意思決定に関する出題です。遊休生産能力がある場合の差額の概念が理解できているかどうかに加えて、問題文全体を的確に読みこなす能力も問うています。